

受注企業動向調査結果

-2013.1-

- 調査時点 平成24年12月調査（平成24年12月末時点）
- 対象企業 150社
- 調査時期 4半期毎（3、6、9、12月末時点）
- 回答企業 91社（回答率：60.7%）

<業種内訳>

プラスチック	7社
鉄鋼・非鉄	8社
金属製品	19社
一般機械器具	20社
電気機器	17社
輸送用機器	7社
精密機器	10社
縫製	3社
計	91社

DI (Diffusion Index)とは、景気の動きをとらえるための指標であり、良化と回答した企業の割合から、悪化と回答した企業の割合を減じた数値です。

生産高（対前年同月比）DI

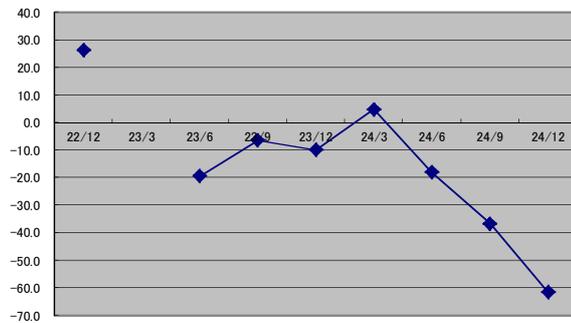
全業種で大きく落ち込む

【概況】

生産高DIは▲61.5となり、前回の▲36.7から24.8ポイント減と大幅悪化し、マイナス幅が拡大した。

海外経済の減速、中国における日本製品の買い控えにより、全体的に国内の生産量が減少していることが、今回の結果に至った主要因と考えられる。

生産高(前年比較)DI



	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12
生産高(3ヶ月前比較)DI	26.3	(未調査)	▲ 19.4	▲ 6.4	▲ 9.9	4.9	▲ 18.0	▲ 36.7	▲ 61.5

業況3ヶ月先見通しDI

大きく改善するも、厳しい状況から抜け出せず

【概況】

業況3ヶ月先見通しDIは▲22.0となり、前回の▲39.8から17.8ポイントの改善となった。

円高に歯止めがかかったことや景気回復に向けての新政権への期待から前回から改善したもの、依然として先行き不透明との回答が多く、厳しい状況が続くものと予想される。

業況3ヶ月先見通しDI



	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12
業況3ヶ月先見通しDI	▲ 28.4	(未調査)	▲ 14.6	▲ 13.8	▲ 24.2	▲ 12.7	▲ 15.0	▲ 39.8	▲ 22.0

受注単価 D I

改善の兆し見えない

【概況】

受注単価 D I は▲37.4となり、前回の▲31.6から5.8ポイントの悪化となった。

受注単価はこの2年間、低調に推移しており、改善の兆しは見えていない。

国内大手企業はもとより中小企業についてもグローバル化が加速しており、人件費の安い新興国との競争にさらされている。この先も受注単価は厳しい状況が続くと見られる。



	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12
受注単価 D I	▲ 32.6	(未調査)	▲ 36.9	▲ 35.1	▲ 30.8	▲ 28.4	▲ 37.0	▲ 31.6	▲ 37.4

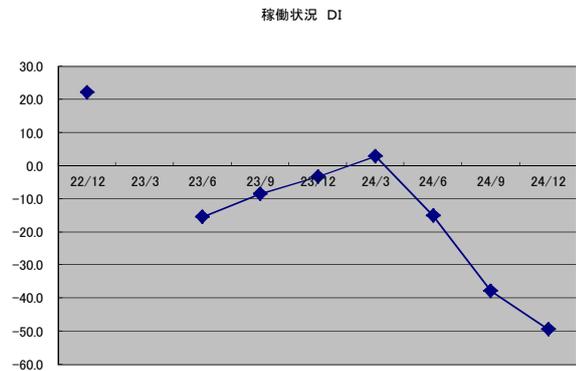
稼働状況 D I

全業種で悪化

【概況】

稼働状況 D I は▲49.5となり、前回の▲37.8から11.7ポイント減と悪化した。

生産高の減少により、機械設備の稼働状況も悪化していることがうかがえる。



	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12
稼働状況 D I	22.1	(未調査)	▲ 15.5	▲ 8.5	▲ 3.3	2.9	▲ 15.0	▲ 37.8	▲ 49.5

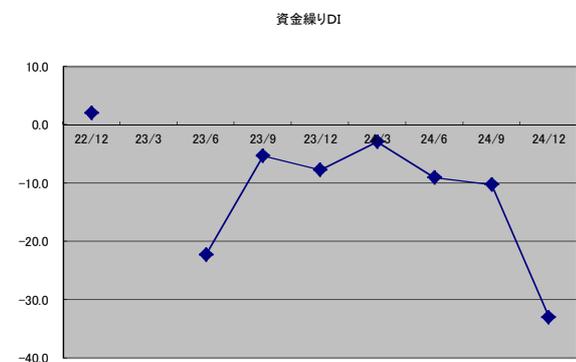
資金繰り D I

マイナス幅大きく拡大

【概況】

資金繰り D I は▲33.0となり、前回の▲10.2から22.8ポイント減と大幅悪化となった。

生産量の減少、受注単価の低下による採算性の悪化が要因と考えられる。



	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12
資金繰り D I	2.1	(未調査)	▲ 22.3	▲ 5.3	▲ 7.7	▲ 2.9	▲ 9.0	▲ 10.2	▲ 33.0